

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.34 歯ブラシによる刺傷の類似事例 1

事例	年齢：1歳11か月 性別：男 体重：11.7kg 身長：88cm
傷害の種類	転倒，刺傷
原因対象物	子ども用歯ブラシ（図1）（長さは15.5cm）
臨床診断名	食道穿孔，縦隔炎，縦隔気腫，皮下気腫
医療費	4,075,660円（2015年6月4日までの医療費）
発生状況	発生年月日・時刻 2015年4月22日 午後8時30分頃
	発生時の詳しい様子と経緯 上記の時刻ころ，自宅1階の寝室に本患児，母，兄（4歳）の3人がいた。父と弟（4か月）の2人は2階のリビングで食事をしていた。本患児は，寝室近くの洗面台に歯ブラシを取りに行き，口にくわえたまま走って寝室に戻ってきたところ，布団の上で転倒した。歯ブラシは布団の上に転がっており，歯ブラシの先には少量の出血痕がみられた。転倒直後は声が出ず，2-3分経過後に，普段とは違う，唸るような泣き方で啼泣した。その後も不機嫌が続いたため，午後11時頃に両親に連れられて当院救急外来を受診した。 受診時，右扁桃の出血，左頸部腫脹，軽度の呼吸困難を認めた。家族の意向もあり，その日は検査をせずに帰宅した。受傷の翌日の朝，呼吸困難が増悪し，近医小児科を受診した。縦隔気腫を疑われ，午前10時頃に救急車で当科に紹介受診となった。
治療経過と予後	受診時，意識レベルは JCS 20，体温：37.7℃，呼吸数：50/分，血圧：118/72mmHg，脈拍：195/分，SpO ₂ ：96%（酸素マスク 6l/分下），左頸部から左前胸部を中心に皮下気腫が認められた。胸部単純 CT 写真で広範な縦隔気腫を認め（図2），血液検査で WBC 13390/ μ l，CRP 5.42mg/dl，PCT（プロカルシトニン）71.03ng/ml，血液培養で PSSP（ペニシリン感受性肺炎球菌）陽性であった。 当院 ICU に収容し，絶飲食の上，酸素投与，輸液，CTRX（セフトリアキソン）+CLDM（クリンダマイシン）の静注と免疫グロブリンの投与を開始し，DIC も合併したため rTM（トロンボモジュリン）製剤，AT（アンチトロンビン）製剤，FFP（新鮮凍結血漿製剤）の投与も併用した。入院3日目に呼吸状態が増悪したため気管挿管を施行し，左胸水貯留に対しては左胸腔ドレナージを施行し，MEPM（メロペネム）の追加投与を開始した。入院10日目に Septic shock となり，VCM（バンコマイシン）を追加投与し，中心静脈ラインからカテコラミン投与も併用した。その後も，アルブミン製剤の補充，凝固因子製剤の補充，RCC-LR（赤血球濃厚液）輸血等を順次施行した。入院15日目の食道造影（図3）で，上部食道から左胸腔内へ通じる瘻孔が造影され，同日，上部消化管内視鏡検査で食道穿孔（図4）と診断した。入院16日目に，食道瘻孔閉鎖術を施行した。同日，胸腔ドレーンから Candida albicans 等の真菌が分離され，同日から MCFG（ミカファンギン）投与を開始した。入院29日目に抜管し，IVH から徐々に経腸栄養に移行した。その後も発熱を繰り返し，治療に難渋した。

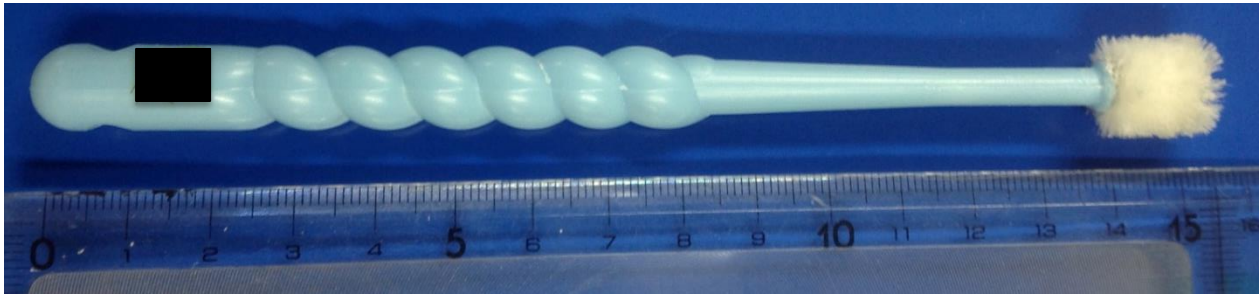


図 1 : 子ども用歯ブラシ

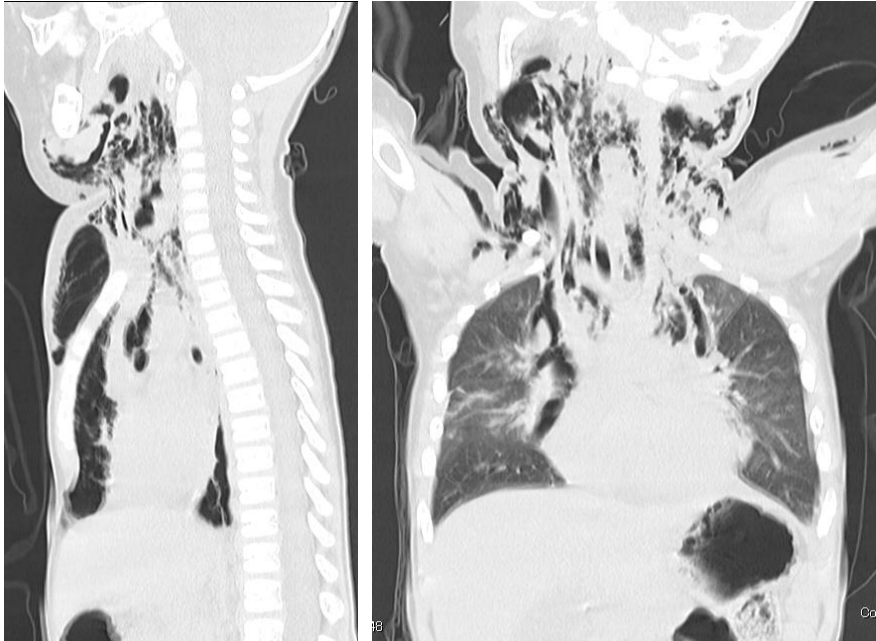


図 2 : 入院時の頸部・胸部 CT 写真 (左 ; 矢状断, 右 ; 前額断)

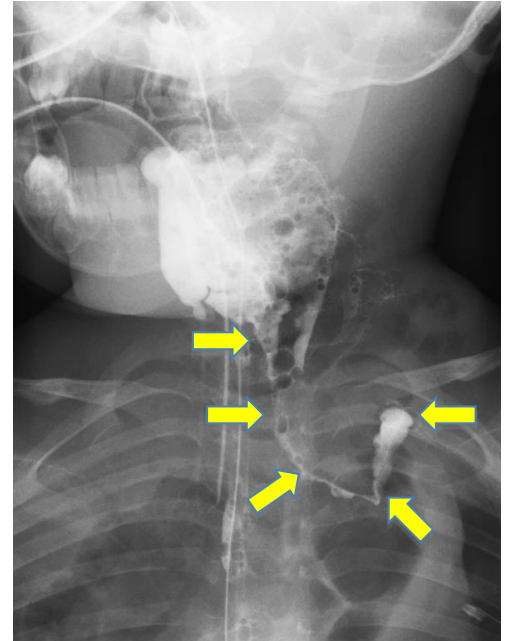


図 3 : 入院 15 日目の食道造影

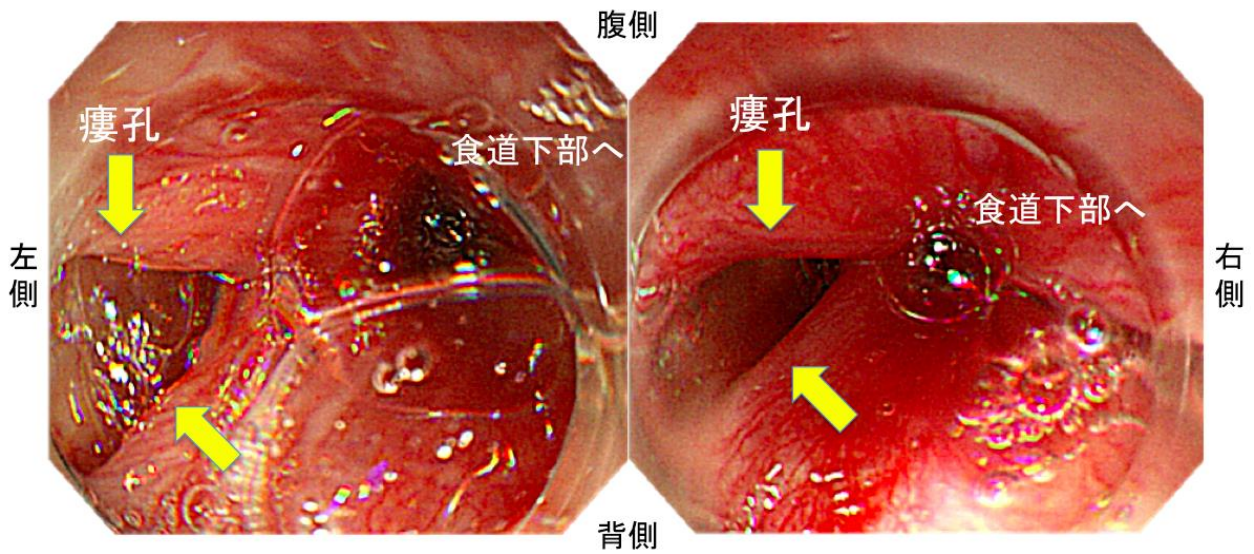


図 4 : 入院 15 日目の上部消化管内視鏡検査